

秋葉町内自主防災会



2014年3月20日

秋葉町内自主防災会の概要

設立：平成20年度

範囲：秋葉1丁目、2丁目、3丁目

	戸数(概数)
1丁目	340
2丁目	200
3丁目	140

組織

全体

会長(担当町内の町内会長)、

副会長(担当町内以外の町内会長)

会計(担当町内)、監査(担当町内以外)

分会(=各町内)

分会長

情報伝達班、消火班

救出救護班、避難誘導班

給水給食班、避難所設営班

班員の構成

町内会役員、町内の人たち

秋葉青年会のメンバー、PTA

秋葉町内会自主防災会 組織図平成25年 4月 1日現在 (平成25年度)

本部機構	秋葉1丁目分会長	班 名	班 長	班員・町内会	班員・青年会	班員・PTA
	斎藤英和 24-1287	情報伝達班	吉田信威 22-6744	南雲明彦 22-1324	瀬倉孝博 23-1853	馬場武志 23-1209
	会長(3丁目) 佐藤征也 24-0834 副会長(1丁目) 大貫敬一 22-1936 副会長(2丁目) 三星二三夫 25-2404 会計(3丁目) 吉野 徹 23-3763 監査(1丁目) 勝見洋一 22-3750 監査(2丁目) 田中勇助 22-6828	消 火 班	南澤 勇 22-8391	豊嶋 昇 22-2941	中村和直 24-8079	古川利行 24-3887
		救出救護班	佐京俊二 24-1820	中山喜美雄 22-1288	渡部一利 24-9509	佐久間正直 23-1571
		避難誘導班	五十嵐隆司 24-9380	小出正夫 22-7054	澤田一成 22-7804	千原克敏 22-7655
		給水給食班	後藤 洵 24-4803	勝見洋一 22-3750	三村 隆 24-9275	渡邊 聡 22-7655
		避難所運営班	田村紀勲郎 22-5261	瀧澤幹夫 24-1418	古川 修 22-8490	小林久美子 23-1162
	秋葉2丁目分会長	班 名	班 長	班員・町内会	班員・青年会	班員・PTA
	宮崎友郎 22-2647	情報伝達班	宮崎友郎 22-2647	吉田亮一 24-5918	林 豊 22-3353	佐藤一成 24-0732
		消 火 班	田中勇助 22-6828	渡辺修治 22-6700	目黒 進 22-6170	皆川 智 23-1521
		救出救護班	青野正男 22-6051	川崎 敏 24-1625	渡辺 優 22-6249	瀬倉 隆 22-3930
		避難誘導班	広瀬健一 22-5286	荒木四郎 22-3404	桑島一典 24-4681	駒形英人 22-7755
		給水給食班	二村淳一 22-1026	高橋 昇 24-1320	田村正和 24-1748	清野里美 24-7098
		避難所運営班	石川博義 22-4668	福田美雄 22-0946	廣田昌信 22-3536	小林旬太郎 22-7067

(3丁目分:略)

3町内持ち回りで運営を担当

1丁目：平成20年、23年

2丁目：平成21年、24年

3丁目：平成22年、25年

担当町内会の町内会長→自主防災会 会長

運営：計画策定、会議運営、会計・経理

訓練の実施等を担当町内が取り仕切る

秋葉町内自主防災会の活動

① 防災上の問題点の把握・点検

- ・災害時要援護者の把握（民生委員）
- ・災害時の支援計画を策定

要援護者と援護者

どのように支援するか

- ・危険箇所等の把握（ハザードマップ）
- ・災害時の避難先（第一次避難所）、
避難ルートの確認 等

（秋葉町内の第二次避難所は「新津高校」）

秋葉町内の土砂災害警戒区域

- 秋葉川(秋葉1丁目、七色の池付近)
- 秋葉(1)(秋葉2丁目、ふれあい公園北側)
- 秋葉(2)(秋葉2丁目・滝谷本町、滝谷)
- 秋葉(2)-2
(秋葉2丁目・滝谷本町、磐越西線近く)
- 秋葉(3)(秋葉2丁目)

土砂災害警戒区域等の指定の公示に係る図書



様式-2 (土)

土砂災害警戒区域図・土砂災害特別警戒区域図

土砂災害防止法施行令第2条の基準に該当する区域

土砂災害防止法施行令第2条の基準に該当する区域

土砂災害防止法施行令第2条の基準に該当する区域

その他の区域

N

縮尺
1:2,500

自然現象の種類

告示番号

告示年月日

土石流

新潟県告示
第188・189号

平成23年2月22日

溪流番号

溪流名

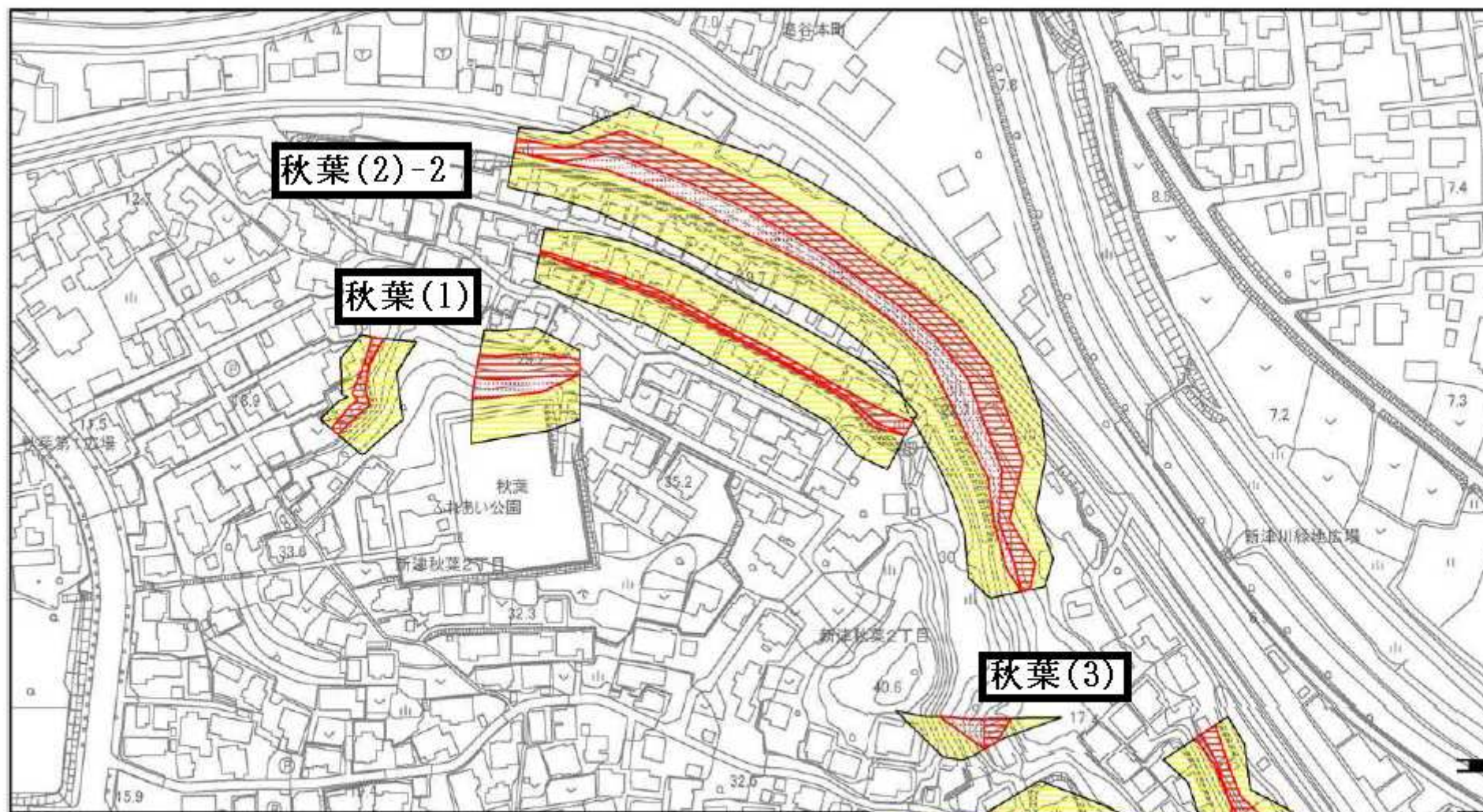
所在地

207-

秋

新潟市

土砂災害警戒区域等の指定の公示に係る図書



様式-2(急)

土砂災害警戒区域・
土砂災害特別警戒区域
区域図

土砂災害防止法施行令第2条の基準に該当する区域

土砂災害防止法施行令第3条の基準に該当する区域

急傾斜地斜面内の区域	
土石等の(移動)高さが1m以下の場合、土石等の移動による力が100kN/m ² を超える区域	
土石等の堆積の高さが3mを超える区域	
それ以外の区域	

1

秋葉(2)

秋葉(3)

秋葉(2)-2

秋葉(1)

② 防災訓練

平成20年～22年 秋葉町内運動会の中で訓練

20年：消火訓練

バケツリレー、消火器による初期消火

21年：応急手当訓練(三角巾、簡易担架)等

22年：AEDの使用、煙体験

平成23年 自主防災会メンバーによる図上訓練

→課題を明らかにする

平成24年、25年 避難訓練

(今後とも継続して実施する見込み)

平成20年：消火訓練

秋葉3町内運動会の最後に「消火訓練」を実施



バケツリレー



早く満杯にしたチームが勝ち



消火器による消火訓練

平成21年：防災訓練

秋葉3町内運動会の最後に「防災訓練」を実施

応急手当訓練（三角巾・副木）

救出・救護訓練（簡易担架）

炊き出し訓練



三角巾の使い方の指導を受ける



骨折の固定には電話帳も活躍



竹と毛布による応急担架の作り方



アルファ米にお湯を加えてご飯(炊き込みご飯)
にする

平成22年：防災訓練

秋葉3町内運動会の最後に「防災訓練」を実施

AEDを使った人命救助訓練

スモークマシーンを使った煙体験訓練



平成23年：図上訓練

想定

地震による被害が発生した直後、半日程度（行政等の対応が本格化する前段階）

- ・地元として何ができるか
- ・どのような問題があるか

→各班毎に検討する

情報伝達班、消火班、救出救護班、
避難誘導班、給水給食班、避難所設営班、
本部



各班毎の検討



検討結果を発表

情報伝達班

課題

伝達すべき情報の流れ

行政等→自主防災会・本部→情報伝達班→地域

情報を伝達しつつ地域の状況を把握する

情報伝達方法

電話が通じない場合：ハンドマイク、貼り紙

→機材（ハンドマイク等）の整備が必要

消火班

初期消火：各自・地域（隣近所）で行う
（消火班（各町内4人）だけでは対応不可）

消防署が行う消火活動を支援
何ができるか？

各家庭で行うべき事
ストーブの転倒防止、浴槽に水を入れておく等

課題

消火栓の位置を確認、点検
周囲に車や物があって使いづらいことはないか

救出救護班

課題

各町内4人の班員だけでは救出すべき人の把握は困難 → 先ず隣組で対応

隣組長との連絡体制を確立する必要
防災に関する町内会の組織作りが必要

避難誘導班

新津高校(避難所)に避難する前に各町内で
数カ所集合する(予め場所を決めておく)
→H24年、25年の避難訓練の「一次避難所」

課題

個人情報問題から、寝たきりの人等の把握が
出来ない。

給水給食班

各家庭で最低3日分は確保しておく。

非常時には各家庭から食料・水を提供してもらう。

町内で食料・水の備蓄はできないか。

ビニール袋(いろいろと用途あり)を備蓄。

行政の備蓄量はどの位あるか。

避難所設営班

避難所(新津高校)に、いつ、どのように設営するか。
(行政の考え方は？ 行政との連絡・連携が必要)

避難所内の各町内毎のスペース割り付け
(行政が大きく区分け→町内での割り振り)

設営のための資材はどうするのか

避難者の受付

本部

災害時には本部員は避難所に集合（連絡がなくても）
先ず町内の情報をまとめる。

町内の範囲を越えてエリア設定をした方が良いかもしれない。（小泉団地）

現時点では避難所の詳しい内容が知らされていない。
（行政への要望）

区役所の対策本部との連絡方法はどうするか。

平成24年～25年：避難訓練

地震災害を想定し、避難訓練を実施

1丁目

避難者 → 一次避難所 → (高齢者等はここで帰宅)
↓
避難所(新津高校)

2丁目、3丁目

避難者 → 一次避難所 → (参加者(高齢者)はここで帰宅)
↓ (各一次避難所のグループ長(参加者))
避難所(新津高校・秋葉会館)



隣組で集合（隣組長さんの家の前で）



一次避難所に向かう



高齢者をリヤカーに乗せて



一次避難所に集合



一次避難所に集合



一次避難所でグループ長の話を聞く



一次避難所でグループ長の話しを聞く
(2丁目、3丁目はここで解散)



一次避難所から新津高校にある避難所に移動

(1丁目)



「防災避難所」の看板(新津高校の入り口)



一次避難所から新津高校にある避難所に移動
(1丁目)⁴⁷



新津高校にある避難所に集合(1丁目)



自主防災会長(3丁目町内会長)によるお話し

今後の課題・対応

避難訓練：地域住民より評価が高い

（「今後も実施してほしい」との声）

→今後も実施したい。

運動会：来年から再開できる見込み

避難訓練とは別に何かやれることはあるか？

避難所である高校の受け入れ体制・行政との連携

よくわからない事が多い

実際の災害発生の場合、避難所に避難するよりも自宅にとどまるケースが多い。その場合の対応は？

END